vol.470

mj "高品質、低価格、情報はマック"
THE MAC JOURNAL
三菱商事アグリサービス株式会社

◆ 2016年1月27日発行ラインナップ
・大寒波襲来
　各地で積雪や氷点下の気温を観測
・野菜の需給ガイドライン

大寒波襲来　各地で積雪や氷点下の気温を観測

2016年1月23日の夜から25日にかけて、全国的に40年ぶりという記録的な寒波が日本列島を襲い、気象台は雪を伴った暴風に警戒するよう呼びかけた。日本列島を寒波が襲った原因は北極圏内に滞留した冷気が偏西風圏内で閉じ込めておけなくなって南下したためだという。雪のイメージがまったくつかない沖縄県久米島では24日夜にみぞれを観測し1977年2月17日以来39年ぶり、名護市では史上初の降雪確認となった。1月の平均気温は15度と温暖な気候で知られているお隣の台湾の台北市でも24日は過去43年間で最も寒い4度を観測。海抜の高い地域では降雪も確認され、台北市の陽明山では5センチの積雪となった。台湾では低温により80人以上の方が亡くなられているという報道があった。台湾ではエアコンでの熱さ対策は取られているが暖房設備があるエアコンの普及がなされてない（暖房機能をつけると割高になり、つける人がほぼいない）事とストーブ等の普及率が低いため対策が取れず、不幸な出来事となったようだ。海を越えたアメリカでも寒波が襲来し非常事態宣言が出されている。

台北の天気　22日05:00(日本時)発表

日付	01月23日(土)	01月24日(日)	01月25日(月)	01月26日(火)	01月27日(水)	01月28日(木)
天気	雨	雪	晴一時雨	晴時々曇	晴時々曇	晴一時雨
気温(℃)	12℃ 7℃	4℃ 2℃	5℃ 1℃	12℃ 7℃	18℃ 13℃	20℃ 16℃
湿度(%)	84%	73%	84%	81%	89%	94%
風速(m/s)	3	2	0	1	3	3

※予報の対象日時は現地時刻になります

さて、国内においてはこの強い寒波により各地でも歩行者の転倒や車両のスリップ事故などが多発し、負傷者は全国200人を超すほか、低温による水道管の凍結で漏水などの被害が相次いだ。

農林水産省によると関東・東北地方を襲った17日からの大雪の影響で、21日までの農作物被害が6県で4.7ヘクタール、園芸施設や畜産の損壊が1都13県で1,702件あり、被害総額は6億6,000万円に上り、23日から25日の全国的な寒波を含めると今冬の農業被害総額は甚大なものになりそうだ。暖冬の今年は南岸低気圧が発生しやすく今回のような大雪をもたらす可能性が大きくなり、2月に入っても予断を許されない状況である。気象情報をまめに確認し、寒さや雪の対策を徹底し被害を最小限にとどめて頂きたい。

野菜の需給ガイドラインと1月後半以降の野菜価格見通し

農水省は毎年野菜の需要量・供給量・作付面積に関するガイドラインを策定している。このガイドラインを参考に全国の出荷団体は供給計画を策定し出荷に努めている。ガイドラインによると秋冬だいこん、冬にんじん、ほうれんそうを除いて昨年度よりも需要量は減少しており作付面積も減っている。秋冬だいこんは作柄もよく、作付面積もやや増加したこと、おでんや鍋物の需要が少ながった事から供給がダブつき廃棄等出荷調整する産地もあったことは記憶に新しい。2015年に作付された冬物野菜については年内の暖冬の影響で作柄もよく生育も早まってやや供給過剰気味に推移し、1月前半までの野菜価格は平年並みで推移する品目よりも安値水準で推移する品目のものが多かった。しかし、1月中旬から様子が変わり本格的な真冬の装いとなった。18日に関東、20日に関西・東海、更には24日の関東以西の西日本全域にもたらした記録的な降雪・大寒波の影響で作物の生育が停滞し一時的に出荷量が鈍る可能性が出てきた。関東地方では24日に降雪があると予報されたため前日の土曜日のスーパーマーケットでは野菜などの生鮮食品を買い求める客で盛況であったようだ。幸い首都圏では

（次ページへ続く）

（前ページより続く）

予報に反して積雪はなかったものの気象庁は異常天候早期警戒情報を発令している。今週末に気温が上がり春めいた気候となる一部の地域はあるとされているが、1月26日から2月4日までは北陸・関東以西で低温となる確率が高いと発表されている。年末までの暖かさで前進した作柄とこの低温による影響で産地からは農産物の出荷量が低下、国内産地間での秋冬作産地から春作産地へのリレー供給がうまくいかないのではないかと懸念されている。極端な天候の変化は野菜の生育にも影響があるが消費者の懐も堪えるため消費が鈍ってしまいがち。これからは肥料の方も春の本格的な需要期を迎え、出荷がピークを迎える時期でもあるためおだやかな天候を望みたいものだ。

■平成27年度　冬野菜等の需給ガイドライン■（出典：農水省ホームページ）

1. 需要量

種別	主な出荷時期	①需要量(トン)	②平成25(26)年産(トン)	前年比(①／②)
春キャベツ ※	28年4月から6月まで	270,900	278,500	▲2.7%
冬キャベツ	27年11月から28年3月まで	423,700	440,300	▲3.8%
冬春きゅうり	27年12月から28年6月まで	298,300	300,600	▲0.8%
春だいこん ※	28年4月から6月まで	193,500	193,600	▲0.1%
秋冬だいこん	27年10月から28年3月まで	854,500	837,400	2.0%
たまねぎ ※	28年4月から29年3月まで	1,306,000	1,370,000	▲4.7%
うち北海道産 ※	28年4月から29年3月まで	694,500	734,100	▲5.4%
うち都府県産 ※	28年4月から29年3月まで	611,600	636,000	▲3.8%
冬春トマト	27年12月から28年6月まで	311,600	339,000	▲8.1%
冬春なす	27年12月から28年6月まで	103,800	105,100	▲1.2%
春夏にんじん ※	28年4月から7月まで	273,700	298,600	▲8.3%
冬にんじん	27年11月から28年3月まで	350,200	348,600	0.5%
春ねぎ ※	28年4月から6月まで	70,200	71,200	▲1.4%
夏ねぎ ※	28年7月から9月まで	75,200	77,500	▲2.9%
春はくさい ※	28年4月から6月まで	89,600	92,500	▲3.1%
秋冬はくさい	27年10月から28年3月まで	487,000	488,900	▲0.4%
ばれいしょ ※	28年4月から29年3月まで	1,804,000	1,822,000	▲1.0%
冬春ピーマン	27年11月から28年5月まで	75,100	78,000	▲3.7%
ほうれんそう ※	28年4月から29年3月まで	250,300	246,500	1.5%
春レタス ※	28年4月から5月まで	92,500	94,500	▲2.1%
冬レタス	27年11月から28年3月まで	150,200	155,000	▲3.1%

（注1）※は平成28年度のガイドライン値（2.3も同様）

（注2）需要量は過去10カ年（平成16年度～25年度）の一人当たりの需要量の推移から回帰式等により推計年次の一人当たり需要量を推計し、これに当該年次の推計人口を乗じることにより推計。なお、需要量は純食料（人間の消費に直接利用可能な食料の形態）ベースで推計。

2. 国内産供給量

種別	③国内産供給量（収穫量）(トン)	④平成25(26)年産(トン)	③／④
春キャベツ ※	376,600	387,000	▲2.7%
冬キャベツ	583,300	597,400	▲2.4%
冬春きゅうり	303,900	308,000	▲1.3%
春だいこん ※	222,500	223,500	▲0.5%
秋冬だいこん	998,900	979,200	2.0%
たまねぎ ※	1,102,000	1,169,000	▲5.7%
うち北海道産 ※	638,700	691,900	▲7.7%
うち都府県産 ※	463,100	477,100	▲2.9%
冬春トマト	370,000	402,700	▲8.1%
冬春なす	116,000	118,300	▲1.9%
春夏にんじん ※	164,800	172,800	▲4.6%
冬にんじん	256,300	249,300	2.8%
春ねぎ ※	84,300	85,200	▲1.1%
夏ねぎ ※	90,100	92,900	▲3.0%
春はくさい ※	112,100	115,700	▲3.1%
秋冬はくさい	609,300	611,900	▲0.4%
ばれいしょ ※	1,167,000	1,196,000	▲2.4%
冬春ピーマン	74,400	77,300	▲3.8%
ほうれんそう ※	261,200	250,300	4.4%
春レタス ※	112,800	115,400	▲2.3%
冬レタス	178,300	179,900	▲0.9%

(注)1で見込んだ需要量を歩留り率及び(1-減耗率)で除し、輸入動向を勘案して推計

3. 作付面積

種別	⑤作付面積(ha)	⑥平成25(26)年産(ha)	⑤／⑥
春キャベツ ※	9,050	9,180	▲1.4%
冬キャベツ	14,800	15,100	▲2.0%
冬春きゅうり	3,040	2,990	1.7%
春だいこん ※	4,660	4,670	▲0.2%
秋冬だいこん	23,000	22,400	2.7%
たまねぎ ※	24,100	25,300	▲4.7%
うち北海道産 ※	12,500	13,700	▲8.8%
うち都府県産 ※	11,600	11,600	0.0%
冬春トマト	3,920	3,940	▲0.5%
冬春なす	1,150	1,130	1.8%
春夏にんじん ※	4,440	4,510	▲1.6%
冬にんじん	8,160	8,070	1.1%
春ねぎ ※	3,430	3,500	▲2.0%
夏ねぎ ※	5,000	5,060	▲1.2%
春はくさい ※	1,860	1,890	▲1.6%
秋冬はくさい	13,400	13,400	0.0%
ばれいしょ ※	79,500	79,700	▲0.3%
冬春ピーマン	751	759	▲1.1%
ほうれんそう ※	21,500	21,300	0.9%
春レタス ※	4,270	4,320	▲1.2%
冬レタス	7,810	7,820	▲0.1%

(注)2で見込んだ国内産供給量を過去10カ年の単収の推移から回帰式等により推計した単収で除して推計

今回の大雪は低温による水道管の破裂で断水が長期化する等、思いもよらない被害が大きくなっていますね。報道によれば、空き家での漏水多発も断水が長期化する理由の一つとの事。大雪と空き家問題が日常生活に影響を及ぼすとは思いもしませんでした。　　編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail： macjournal@mcagri.co.jp　URL http://www.mcagri.jp